

「遊々の森」を活用した森林環境教育の支援

山形県真室川町の甑山探求会は、山形森林管理署最上支署との協定により、遊々の森を設定し、「塩根川学校の森」の愛称で森林環境教育の場として活用しています。

平成19年度には、真室川北部小学校を対象として森林環境教育をおこないシイタケ植菌や下刈りなどの体験活動の技術指導を実施しました。



遊々の森を活用したシイタケの植菌



自然観察の様子

場 所：山形県最上郡真室川町 大滝国有林（山形森林管理署最上支署）

「遊々の森」を活用した森林環境教育の支援

大槌・気仙川流域では水産業が盛んなことから、小学校等の総合学習では海をテーマにした取組が多数行われており、三陸中部森林管理署では、将来を担う子供達に海と森林の関係等について森林環境教育を行うこととしています。

平成19年度は、大船渡市立末崎中学校と協定を結んだ「遊々の森（産土の森）」において、森林環境教育を実施し、海と森林との関係、森林の多面的機能や地球温暖化等について学習した後、ナラ、コナラの植樹や下刈作業などの体験学習を行いました。

今後も「遊々の森」を活用して海と森林のつながりなど子供達にわかりやすい森林環境教育を実施していくこととしています。



下刈をする中学生



ウッドガードの設置

場 所：岩手県大船渡市 末崎国有林（三陸中部森林管理署）

③ 国民参加の森林づくり

ア 分収林制度^{注)}による森林づくり

東北森林管理局では、分収林制度を利用して、企業が社会に貢献するとともに、社員教育や顧客とのふれあいの場として森林づくりを行う「法人の森林」の設定を進めています。

平成19年3月末現在、18森林管理署等において、21団体、47箇所の法人の森林72haを設定しています。

また、分収育林の契約者である「緑のオーナー」の皆さんに対しては、契約している森林への案内や植樹祭等のイベントへの招待など、森林とふれあう機会の提供などに努めています。

分収林の現況面積		(単位: ha)	
区分	平成19年度	平成18年度	
分収造林	47,171	46,675	
うち法人の森	72	72	
分収育林	4,595	4,664	
うち法人の森	214	203	

「キリン北蔵王水源の森」(法人の森)における活動

キリングroupは創立百周年事業の一環として、総合的な水資源保全活動「チーム・エコロジー活動」を展開しています。

平成19年度は、国土緑化推進機構・キリンホールディングス・仙台森林管理署の三者による「キリン北蔵王水源の森づくり協定書」の披露が行われ、「法人の森林」存続期間における協力を誓いました。その後、キリンビール仙台工場の水源である釜房ダム上流の水源地の小屋沢国有林で、森林整備(枝打ち体験)を実施しました。



法人の森協定書の披露



枝打ち作業体験

場 所: 宮城県川崎町 小屋沢山国有林(仙台森林管理署)

イ NPO等による森林づくりの支援

東北森林管理局では、国民の皆さんの自ら森林づくりを行いたいという要望に応えるため、国有林野を森林づくりのフィールドとして提供する「ふれあいの森」の設定を進めています。ふれあいの森では、植樹や下刈のほか、森林浴、自然観察会、森林教室等の活動を行うことができます。

平成19年度末現在、10森林管理署等において、20のボランティア団体等と「ふれあいの森」の協定を締結しています。森林管理署等では、こうした活動に対して、技術的な助言や講師の派遣等の支援を行っています。

また、ふれあいの森以外の国有林野においても、ボランティア団体等の皆さんによる森林づくり活動に対して技術指導等の支援を行っています。

「ふれあいの森」協定件数（単位：件）

平成19年度計	平成18年度計
20	22

「ふれあいの森」の植樹活動

むつ市とむつ市大畑町林業振興対策協議会では、「ふれあいの森」を活用して山と海の交流の森「かけはしの森」を造るため植樹と育樹作業を実施しています。

平成19年度は、二階滝国有林内の「ふれあいの森」において、林業・漁業関係者及び一般市民らが約400名参加し、ヒバとブナの苗木を830本植えました。小学生や高校生、年配者に至るまでの幅広い年齢層の市民が参加して盛況に行われました。



小学生が植樹を行う様子

場 所：青森県むつ市大畑町 二階滝国有林(下北森林管理署)

森林環境教育の推進

三八上北森林管理署では、「ふれあいの森」を活用し、森林整備等の活動協定を締結した3団体（田中建設工業(株)、青森県生活協同組合連合会、おいらせ知の会）に、公益的機能を重視した国有林の管理経営、森林の持つ役割などについて森林教室を実施しています。平成19年度は、6月に3団体から延べ189名が参加しブナの苗木400本を植樹した後、森林教室を実施しました。



植樹後の記念撮影



植樹をする参加者

場 所：青森県十和田市 谷地国有林（三八上北森林管理署）

閉伊川上・下流ふれあい林業体験（間伐運動会）

久慈・閉伊川流域では、川上・川下の市民等が一体となり水土保持林等の公益的機能を十分発揮させるため、間伐等の森林整備に取り組んでいます。

平成19年度は、宮古市や盛岡市、川井村等から市民60名が参加して川井村の横倉沢国有林で、カラマツ人工林の間伐や地表のササの刈り払いを行いました。



手鋸を使って間伐作業



林内のササの刈り払い

場 所：岩手県下閉伊郡川井村 横倉沢国有林（三陸北部森林管理署）

ウ 木の文化を支える森づくり

東北森林管理局では、歴史的に重要な木造建造物や各地の祭礼行事、伝統工芸等次代に引き継ぐべき木の文化を守るため、「木の文化を支える森づくり」を進めており、現在、3箇所が設定されています。

平成19年度は、米代西部森林管理署長と「秋田杉・桶樽の森」育成協議会が5年間（平成20年4月1日～25年3月31日）の協定を締結しました。

管内署	森林の名称	「木の文化を支える森づくり」の実施主体
米代東部	曲げわっぱの森	大館市、大館商工会議所、曲げわっぱ協同組合
米代西部	秋田杉・桶樽の森	秋田杉桶樽協同組合
	ポスト天杉の森	秋田県天杉製材協議会

木の文化を支える森づくり活動への支援

天然秋田杉については、木曽ヒノキ、青森ヒバと並ぶ日本三大美林の一つであり、これから生産される桶・樽等はブランド製品として全国的にも評価が高く、木都能代の伝統産業となっています。

しかし、天然秋田杉の資源量は年々減少し、供給量が制限される中、ポスト天然秋田杉の代替材として、次代を担う高齢人工林スギを守り育てることが重要となっています。

このため、天然秋田杉の代替材として期待されている高齢級人工林スギの育成を図り、併せて木の文化の継承に貢献する普及啓発、森林環境教育への活用を図ることとしています。



「秋田杉・桶樽の森」



スギ材を使用した樽の製作の様子

場 所：秋田県能代市 黒森沢国有林（米代西部森林管理署）

エ 生物多様性の保全や自然再生活動の支援

東北森林管理局では、ボランティアの方々と連携して、希少種の保護など生物多様性の保全や自然再生に取り組んでいます。

津軽白神森林環境保全ふれあいセンターでは、平成19年度、学識経験者、自治体関係者、ボランティア団体等からなる「白神山地周辺の森林と人との共生活動に関する協議会」が発足し、白神山地森林生態系保護地域（世界遺産地域）周辺の自然再生活動等、周辺地域の円滑な管理運営を図るとともに、センターの取組み課題などについて提言をいただくことになりました。

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターでは、生態系保護地域管理委員会を開催し、森林生態系保護地域のモニタリング調査、ボランティア巡視活動、スノーモービル乗り入れ問題、生態系区域標識の雪害対策、テント設置禁止区域の周知、「朝日自然塾」プログラム等について積極的に取り組んでいくこととしました。

また、鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊（土湯の森）の機能回復を図るため、自然再生実施協議会を設置し、自然再生実施計画を作成するなど、ボランティアによる自然再生活動・植生モニタリングのほか森林環境教育を実施しています。さらに、庄内海岸林等の保全活動、緑の山歩塾への支援等を積極的に実施しました。

津軽白神森林環境保全ふれあいセンターの取組

津軽白神森林環境保全ふれあいセンターは、青森県側の白神山地世界遺産^{注)}地域とその周辺を主なフィールドとしています。

平成19年度も、森林環境教育、自然再生活動、モニタリング調査や白神山地の巡視活動の支援等に積極的に取り組みました。

また、全国各地で活動している全国子ども会連合会、国土緑化推進機構、毎日新聞社が実施している「MOTTAINAIキッズ植林プロジェクト植樹会」が9月に鱒ヶ沢町の国有林内で行われました。当センターと地元ボランティア団体が協働して、鱒ヶ沢町内外の小・中学生ら約60名が参加し植樹会と森林教室を実施しました。



植樹を終えて記念撮影

場 所：青森県鱒ヶ沢町 矢倉山国有林
(津軽白神森林環境保全ふれあいセンター)

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターの取組

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターは、日本最大級の広さを誇る朝日山地森林生態系保護地域とその周辺を主なフィールドとしています。

朝日自然塾では朝日山地森林生態系保護地域及びその周辺をフィールドとして、森林や自然の働きを体感し自然との付き合い方を学ぶ体験活動型の森林環境教育を実施しました。

夏の朝日自然塾では、ハッチョウトンボなどの昆虫観察や大井沢自然博物館・自然と匠の伝承館見学、昆虫の形態や生態を昆虫の標本を使っての説明などが行われました。



標本を使用して説明している様子



昆虫を採取している様子

場 所：山形県西川町 大井沢森林公園ほか

藤里森林センターの取組

藤里森林センターは、秋田県側の白神山地世界遺産地域とその周辺を主なフィールドとしています。

平成19年度は、センターで実施できる森林教室や体験林業等の内容を、地元の小中学校に直接紹介したり、ホームページで情報発信するなど積極的な働きかけをしました。その結果、森林環境教育の依頼が例年の倍増となり、延べ400人の皆さまに森林とのふれあいの場を提供することができました。



野外での森林教室

場 所：秋田県藤里町 岳岱自然観察教育林(藤里森林センター)

オ 地域発案システムの推進

森林管理署等では、それぞれの地域のニーズに即した課題を設定し、地域住民、地方公共団体、NPO等と連携を取りながら自主的な活動を実施する「地域発案システム」を推進しています。

平成19年度は、東北森林管理局と管内の24森林管理署等において、地域住民による森林ボランティア等との連携による森林の保全や再生のための活動、地元教育関係機関等との連携による森林環境教育のための教材開発や森林環境教育等27課題に取り組みました。

市町村・地域住民と連携したフィールドの整備

八幡平山麓にある安比高原は、ブナ二次林と「中の牧場」を中心とした芝生高原など、人間と家畜と自然が一体となった自然環境に恵まれた場所で、トレッキング客や観光客が多数訪れている高原です。

しかし、近年、芝生高原には灌木等の進入により、景観が変化してきたことから、八幡平市、ペンション関係者、地域住民と連携を図りつつ、平成18年度から灌木の除去等に取り組んできました。

平成19年度は、八幡平市と協定した「あっぴ高原遊々の森」において、灌木の除去などフィールドの整備を行ったほか、11月に八幡平市と共催により開催したイベントと意見交換会を行い、地域住民、ペンション関係者、ボランティア等約60名が参加し、国有林と地域住民等との交流を図りました。



灌木の除去の様子



意見交換会の様子

場 所：岩手県八幡平市 安比岳国有林(岩手北部森林管理署)

十二神自然観察教育林の整備と森林教室の実施

三陸北部森林管理署では、十二神千古の森協議会と連携して、十二神自然観察教育林を市民に親しまれる森林として利用していただくため、様々な取組を実施しています。

平成19年度は、教育林入り口から150mを十二神千古の森協議会、地元自治体、学識経験者、関係団体等32名のボランティアと協力し、環境保全型舗装の歩道整備を行いました。あわせて、森林環境教育等に活用できるようパンフレットの作成も行いました。



ボランティアによる歩道整備



完成後の歩道の様子



完成したパンフレット

場 所：岩手県宮古市 鮎山国有林(三陸北部森林管理署)

久慈の自然と森のキノコ展の開催

地域の方々に国有林の優れた自然景観や生態系を保護する森林に関心を高めってもらうため、平成18年度から支署庁舎玄関ホールを利用し、『久慈の自然と森のキノコ展』と題して、樹木の花や山野草、支署で取り組んだイベントのパネルの展示や管内で見られるキノコの展示を行いました。

19年度は、管内の平庭国有林の樹木の花や山野草を写真パネル等で展示するとともに、「森のキノコ展」として約100種類のキノコ類を展示しました。

「森のキノコ展」では職員が食用と毒キノコの見分け方など詳しく説明し、開催期間中の来場者は約200名にも上りました。



キノコ展の様子

場 所：岩手県久慈市（三陸北部森林管理署久慈支署）

カ 「巨樹・巨木」に係る自主的保護活動の推進

国有林野事業では、全国の国有林の中から、太さ（人の胸の高さの直径）1 m以上の樹木、または地域のシンボルとなる樹木などの巨樹・巨木を100箇所選定して、「森の巨人たち100選」として公表しています。

東北森林管理局管内には、22本の巨樹・巨木が選定されており、そのうち18本については、地元保全協議会が結成され、自主的な保全活動等が行われています。

また、東北森林管理局では、豊かな自然環境を有する管内国有林野の中から、未来へ残すべき大径木からなる森林を「巨木を育む森」に設定しており、現在、管内21箇所でも多くの方々に親しんでいただいています。

「巨木の森コンサート」に対する支援活動

平成19年9月、最上支署管内国有林の女甕山のブナ林で、巨木とのふれあいを通じて、森林環境保全意識の高揚を図るため、「巨木の森コンサート」が開催されました。当日は天気にも恵まれ、ブナ林に響くピアノとサクスの音色が会場に訪れた250人の聴衆を魅了しました。

また、コンサートに先立って支署管内で「森の巨人たち100選」に指定されている女甕の大カツラと岩神権現のクロベについて樹木医による診断も行われました。



見事な音色に魅了される聴衆



ピアノとサクスの演奏



女甕の大カツラの診断

場 所：山形県最上郡真室川町 母子鬼山国有林
(山形森林管理署最上支署)

(4) 地球温暖化防止対策の推進

東北森林管理局では、平成20年3月に改定案が閣議決定された「京都議定書目標達成計画」や、「地球温暖化防止森林吸収源10ヶ年対策^{注1)}」等を踏まえ、二酸化炭素を吸収・貯蔵する健全な森林の整備・保全や木材利用等に率先して取り組んでいます。

森林吸収源対策の推進のため、間伐や複層林化などの適切な森林整備等を積極的に進めるとともに、保安林^{注2)}等の適切な保全管理に取り組んでいます。

また、森林吸収源対策に対して国民の皆さんの理解と協力が得られるよう、国民参加による森林づくりや、双方向の情報の発信、森林環境教育等を進めています。

さらに、治山・林道工事の実施に当たっては、木材の利用に積極的に取り組み、吸収源としての森林の整備にも貢献することとしています。

東北森林管理局における二酸化炭素固定に資する
木材・木製品の使用状況(単位m³)

区 分	平成19年度	平成18年度
林道事業	2,190	2,600
治山事業	7,866	7,209
計	10,056	9,809

間伐材の安定供給と有効活用

中国など海外における木材需要の増加、ロシアにおける原木の輸出規制などから、木材輸入を巡る状況は不透明さを増しています。このような中、集成材や合板の加工技術の向上等から、これまで利用が進まなかった曲がり材や間伐材の利用が可能となり、国産材の需要が拡大しています。

仙台森林管理署では、積極的な森林整備の結果生産されるスギ等の間伐材を合板工場等に原材料として安定的に供給しています。また、合板工場では、製造過程で発生する端材や木くず等を燃料とする木質バイオマス発電に取組み、資源の有効活用と化石燃料の削減に取り組んでいます。



間伐材をフォワーダ^{注3)}に積込している様子



バイオマス発電プラント

場 所:宮城県仙台市 小屋森国有林(仙台森林管理署)

治山・林道事業における間伐材利用の推進

宮城県の金華山では、近年急激に松くい虫被害や島内に生息するニホンシカの草食被害により、近年急激に裸地化した箇所が増えています。地元石巻市（旧牡鹿町）等から早期復旧の要望があったことから、復旧治山、防災林造成事業により治山ダムの設置や山腹工を実施し、荒廃地の拡大防止や緑化を図りました。

平成19年度は、治山ダム2基設置、木製法枠工2,244㎡、防鹿柵工625m、植栽工2.31ha、下刈5.10haを実施するとともに木製法枠工の施工にあたっては、南三陸金華山国定公園内であることから、景観にも配慮し、地元の間伐材84m³を使用しました。



木材を利用した山腹工

場 所：宮城県石巻市 金華山国有林（宮城北部森林管理署）

米代西部森林管理署では、自然景観に配慮し、長柱沢林道の法面工事にウッドブロックを使用したブロック積工を実施しました。高さ2m、延長103mに渡り、間伐材98m³使用しました。



ウッドブロック施工後の法面

場 所：秋田県三種町 添畑沢国有林（米代西部森林管理署）

宿舎・庁舎での間伐材利用の推進

三陸中部森林管理署では、平成19年度に、木材をふんだんに使用した木造の庁舎が完成しました。

持続可能な森林経営の下に合法的に伐採された木材を使用しており、内装材は地域特産樹種であるスギ・アカマツ・カラマツ・クリ等を使用し、事務室と会議室の梁には地元産プレカット「カラマツ大断面集成材」を使用するなど、104m³の木材を利用しました。



完成した三陸中部森林管理署庁舎



構造材にスギ・アカマツ・カラマツを使用

場 所：岩手県大船渡市（三陸中部森林管理署）